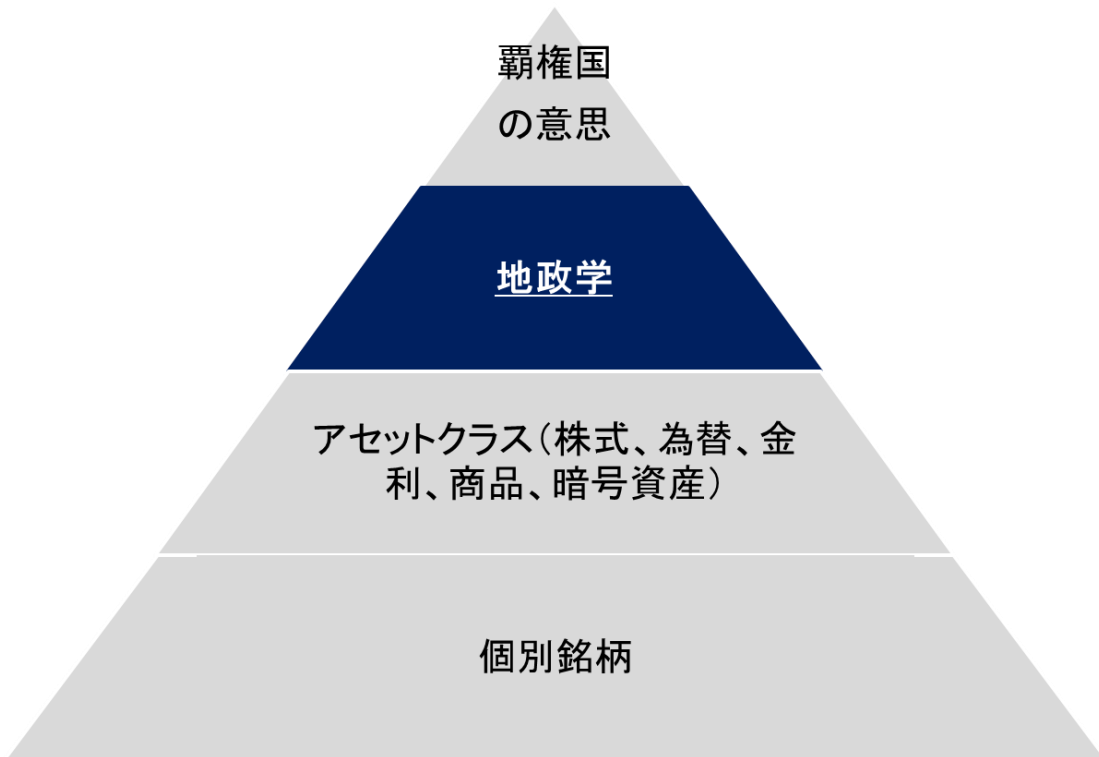


2024年3月5日
株式会社フィスコ（3807 グロース）

地政学リスクを踏まえたレポート配信を実日総研と共同で開始 ～台湾有事の際の上場企業の中国リスクランキングなど～

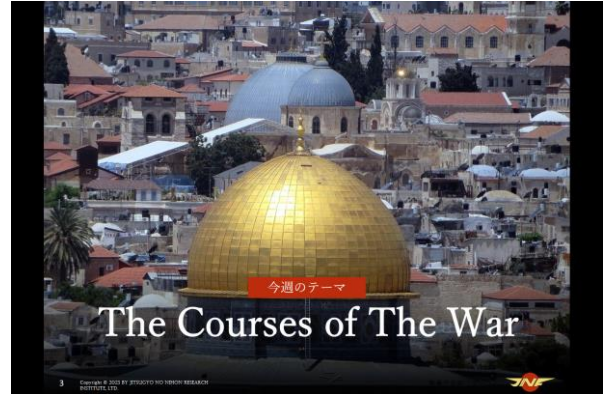
株式会社フィスコ（グロース上場、証券コード「3807」、本社：東京都港区、代表取締役社長：中村孝也、以下「フィスコ」といいます。）は、地政学リスクを踏まえたレポート配信を株式会社実業之日本総合研究所（本社：東京都港区、代表取締役会長兼 CEO：岩野裕一、以下「実日総研」）との協業にてサービスを開始することをお知らせいたします。

米中覇権争いの激化により、もはや「地政学」を押さえずに投資判断をすることが難しい状況であるといえます。足もとでは、アメリカが中国製の港湾用クレーンを安全保障上のリスクと発表したことで、国内企業の米国子会社が米国内でのクレーン能力増強を計画しているとして株価が急騰したことが記憶に新しいところです。



フィスコでは実日総研との共同プロジェクトである言論・研究プラットフォーム「[実業之日本フォーラム](#)」に参画し、地政学に強い実日総研、経済に強いフィスコの研究分析を融合してきました。この成果については、毎週水曜日 16 時からの「[地経学サロン](#)」において、数々の研究として発表してきたところです。

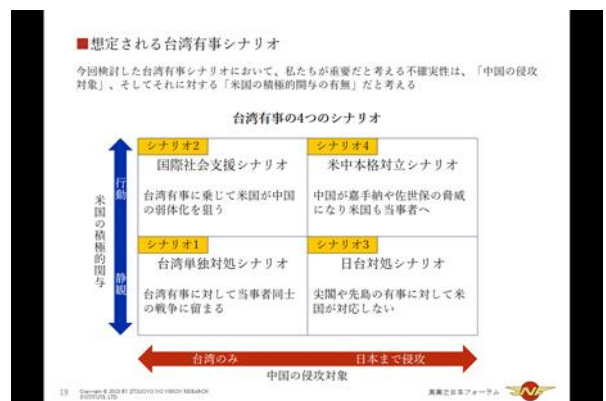
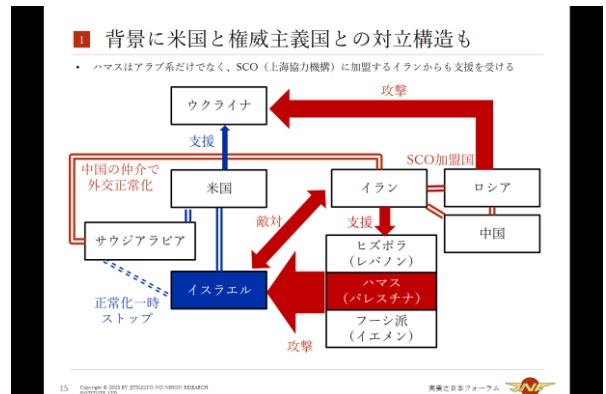
■地経学サロン研究成果のサンプル(イスラエル、台湾有事)



本日の内容

イスラエル・ハマスの戦争の行方
知っておきたい3つの問い

- 1: 「なぜ Hamas は攻撃したのか」
 - ・中東戦争の経緯
 - ・国家対国家の戦い 第1次～第4次中東戦争
 - ・国家(イスラエル) 対 非組織の戦い レバノン・ガザ侵攻 などこの時期に攻撃したのか
- 2: 「イスラエルはどう戦うか」
 - ・イスラエルとハマスの競争力比較
 - ・双方の軍事作戦
 - ・イスラエルの作戦構想とその特長
 - ・激化する情報戦
 - ・イスラエルの戦争遂行能力
- 3: 「世界はどう動くのか」
 - ・米中戦の思惑
 - ・ゼロ日シナリオは再来するのか
 - ・ウクライナ戦争への影響
 - ・台湾有事リスクへの影響
 - ・日本が備えるべき事



それらの研究成果を生かしつつ、フィスコ顧客層のニーズにより合うコンテンツをフィスコが開発し、金融機関、機関投資家、個人投資家および上場企業向けにフィスコが拡販することで、実日総研との協業をより深めてまいります。具体的には台湾有事が上場企業に与えるリスク(中国リスクランキング)、中東やウクライナ紛争がエネルギー価格に与える影響、米大統領選が為替、通商に与える影響などをフィスコが付加していくことで、拡販するような内容となる予定です。



News Release

【株式会社フィスコの概要】

会社名: 株式会社フィスコ(東証グロース:3807) <https://www.fisco.co.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2482 号

加入協会: 一般社団法人 日本投資顧問業協会

所在地: 東京都港区南青山五丁目 13 番 3 号

設立日: 1995 年 5 月 15 日

資本金: 14 百万円(2023 年 12 月 31 日現在)

代表者: 代表取締役社長 中村 孝也

事業内容: 金融機関、投資家、上場企業を支援する各種情報サービスの提供